

2013年5月14日

第176回日本経営倫理学会・理念哲学研究部会5月例会

「研究発表大会における準備報告」

ケアの専門職教育における体験と省察的実践のレッスン
——山田わかの人間形成論を契機として——

はじめに

- 1 エロスの遂行と切断
- 2 愛欲と道徳の教育——ナショナリティと身体のカについて
おわりに——体験による学びと省察的実践のレッスン

本研究は、近年、我が国でも急速に重要性が高まっているケアの専門職教育をテーマとし、とりわけ重視される体験による学びや実践の理念的な諸相に焦点を当てる。さらに本稿では、よりアクチュアルなケースを垣間見るため、具体的な人物「山田わか(1879~1957)」の人間形成論を契機に考察を加えるものである。

筆者は、これまで福祉教育実践の原理的な研究をし、昨年度は本学会において、活動による学びという観点から「ケアの専門職教育と活動による学びの考察」(「日本経営倫理学会第21回大会」)として研究成果を示した。本研究ではより展開的に、具体的な人物の人間形成にフォーカスしつつ、近年のケアの専門職教育の中核ともいえる、体験的な学びや実践を省察的に捉え直すことを論点とする。

本稿においては、個別なケースとして、女性のケアや福祉の実践に先駆的に関わった山田わかの人間形成を論述し、自らの身体への暴力的な被害の体験、ミッションの生成からケアの事業の遂行、家族のケアへの構想が、ドラマティックな生の軌跡の中で織り成されたことを指摘する。さらに論述されていくのは、被害から当事者性をもつ者としてのケアの実践、ミッション生成から実践へと至る体験、こうした体験を経た学びの飛翔的な成長のもつ可能性と危険性への教訓である。そうした学びは、状況やコンテキストにより、複合的に徳の秩序が変転し、倫理のもつ価値の秩序づけが重層的に変化した際には、時として深刻な問題が孕むことが示唆される。

我が国のケアの専門職養成は、体験的な学びのカリキュラムスタンダード、重要な保育士養成のミニマムスタンダードを見ても、形成されて日が浅い。さらに加えて、マクロな政策的経済的な要請と変転の中で、カリキュラムの変容が予想される状況の中、ケアの実践へと直接結びつく体験的な学びの重要性を鑑みても、理念的な省察が一層に求められると考察される。